

かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第17号 (平成31年3月)

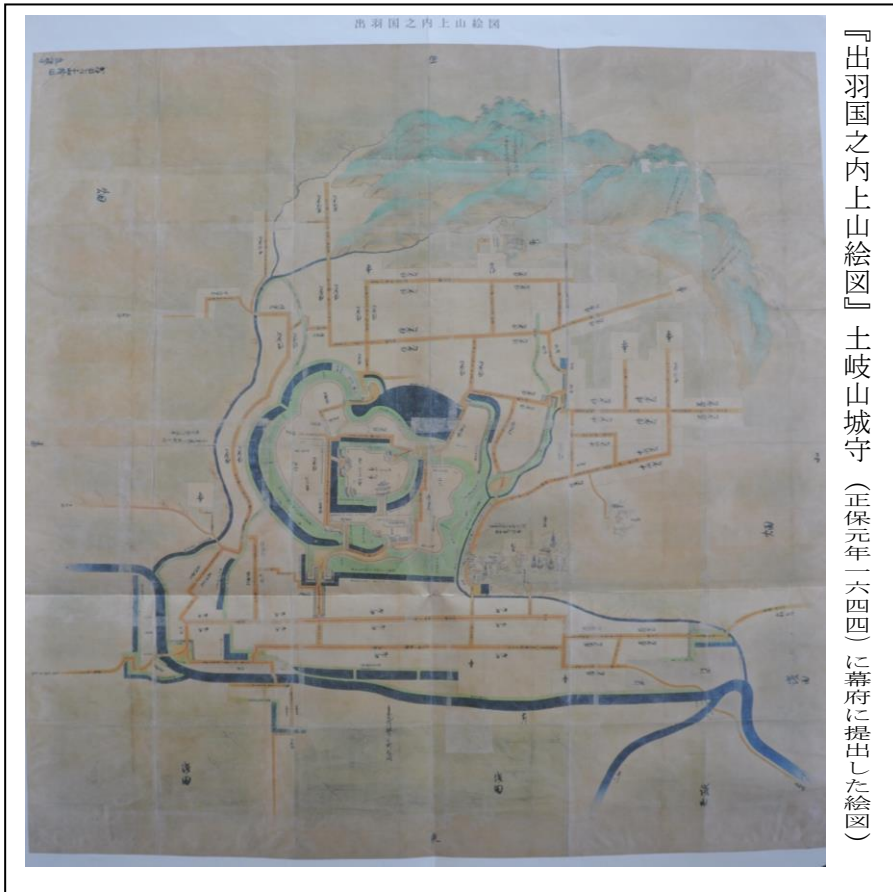
- ミドリ 「ずいぶん暖かくなって春らしい感じね。今度はゆっくりお城をながめられるわ。」
- あゆみ 「さあ、説明板を見るんだったな。まず“上山城の沿革”というこれからだな。」
- ふみお 「えーと、まず応永年間初期1400年前後に、里見満長が虚空蔵山に築いた山城が初めてで、高橋城または亀ヶ岡城とも言われたんだって。」



- ミドリ 「虚空蔵山というのは、松山の西の三角の山でしょう。そこが初めてだったのね。」
- あゆみ 「へえ、ここじゃなかったのか。それで、いつここにたてたの？」
- ふみお 「まあ、ちょっと待って。その前に、伊達植宗に攻略、つまり攻められ、翌年返還、つまり返されて、そして、再び攻略された。」
- あゆみ 「うーん、ややこしい！」
- ふみお 「そして、天文4年(1535)満長の子孫の武衛義忠が拳兵し奪い還した。」
- ミドリ 「攻められたり、取り返したりだったのね。」
- ふみお 「そう。そして、その年、あらたにここに城を築き、月岡城とも称したと書いてある。」
- あゆみ 「フー。やっとこの城ができたわけだ。大変だったんだね。」
- ふみお 「武衛氏の後、主な城主は、里見氏、能見松平氏、蒲生氏、土岐氏と続くんた。」
- ミドリ 「あら、でもその後、破壊されたとあるわ。」
- ふみお 「そう。そして、城主は金森氏、藤井松平氏

上山城跡

- と続くが、城は再築されることはなかった。明治5年、堀も埋め立てられたとある。」
- ミドリ 「最後に、現在のお城は、“旧二の丸跡”に、昭和57年、“郷土資料館”として建てられたとある。」
- あゆみ 「旧二の丸跡というのは？」
- 文じい 「城は天守閣のようなものばかりをいうのではないんじや。平山城と書いてあるが、山から平地に下がってきた城は、中心になるところを“本丸”、その周りに“二の丸”、さらに、その周りに“三の丸”というぐあいに、守りを固めるようにつくっているものが多いんじや。」
- ふみお 「山形に、三の丸跡というのがあるね。」
- ミドリ 「私も知っているわ。山形城というのは、あの霞城公園のはずよね。そこからだと結構遠いわね。すごく広い構えだわ。」
- あゆみ 「この城が二の丸ということは…、じゃあ、本丸はどこ？」
- 文じい 「ふむ、この上のそれ…」
- ミドリ 「えっ、上は、“月岡神社”よ。あそこは前から神社じゃなかったの？」
- あゆみ 「月岡城とも言ったということは、やっぱりそこに城があったの？」
- 文じい 「その通りじや。あそこが本丸じゃった。」
- あゆみ 「やったね！それで、二の丸はどこまで？」
- 文じい 「さあ、城の中に入るとわかる。」
- あゆみ 「おおっ。金のしゃちほこがある。こんなに大きいのか。」
- ミドリ 「本物が屋根に付けられているのね。それに、このロビーに城の絵図があったんだわ。」
- 文じい 「この絵図は、正保元年に幕府に提出した絵図で、国の重要文化財に指定され、国立



『出羽国之内上山絵図』土岐山城守（正保元年一六四四）に幕府に提出した絵図



出土した瓦



出土した陶磁器

公文書館のものを原寸大写真にして展示したものだという。」

あゆむ「あっ、本丸という字がわかる。」

ミドリ「この丸もあるわ。あれ、こっちにも二の丸がある。」

ふみお「そうか、本丸を囲んでいるんだ。今の城のところには何か別の建物があったんだね。」

文じい「ふむ。“城米蔵”と書いてあるの。」

ミドリ「この字見たことあるような、えーと、侍じゃなかった？」

文じい「そう“侍屋敷”じゃ。よくわかった。」

ミドリ「ふふ。右の二の丸は月岡公園のところ？」

ふみお「そうだね。左の方は…、あれ、駐車場のところになるのかな？」

文じい「その通りじゃ。駐車場のところは、平成16年（2004）、発掘調査が行われた。」

あゆむ「埋蔵金は見つからなかったかな。」

文じい「ほほっ。一番多かったのは、瓦だったようだ。それに陶磁器。皿とか茶わんなどじゃな。柱とか井戸の跡も見つかった。侍屋敷

ということだろう、さらに縄文時代という大昔の跡も見つかったというから、長く人々がくらししてきたことがわかるのう。さあ、展望台に登って上から見てみよう。」

ミドリ「ああ、ここからながめる景色はいつ見てもいいわね。上山がとてもいいところだとつくづく感じるわ。」

あゆむ「こっちが月岡神社と駐車場の方だけど、本丸と二の丸だね。それにしてもなぜ城は破壊されたのかな。」

文じい「ふむ、それを調べていくと当時の様子や事情がいろいろわかってきそうじゃの。」

